

音と光の祭典に

～ 第9回横芝町花火大会 ～

6万5千人の大観衆

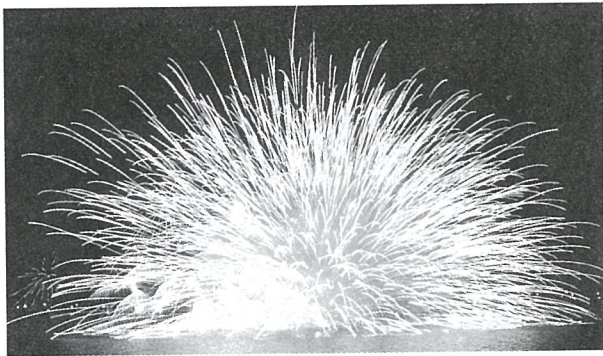
ふれあい坂田池公園を会場に「横芝町花火大会」が行われるようになったのは平成2年の8月。坂田城築城五百年を記念して、地域の活性化と連携をテーマに、住み良い町づくりを目指して30年ぶりに復活したもので、今回で9回目を迎えました。

近隣では、佐原や小見川、銚子などの花火大会が有名ですが、横芝の花火もこれに勝とも劣らない人気で、今年も町内外から約6万5千人の大観衆が訪れました。会場周辺には14箇所の特設駐車場に2700台分の駐車スペースが設けられましたが、会場に一番近い横芝中学校では開幕1時間前の午後6時には既に満車状態。他の特設駐車場でも、午後6時30分にはほとんどが満車になってしまいました。

午後6時55分、会場を埋め尽くした大観衆を前に、平山観光協会長と寶川町長が「音と光の織り成す感動の共演を、存分にお楽しみください」と挨拶。5・4・3・2・1・0のカウントダウンで午後7時に開幕すると、次々に3500発の花火が打ち上げられ、お盆で帰省した人たちも、1時間半にわたって故郷の夜空を焦がす音と光の祭典に酔いしれていました。中でも特大の水中スターメインと地上400メートルで花開く尺玉花火は豪快そのもので、1発打ち上げられる度に大きな歓声が上がっていました。



本部席前は開幕2時間前にはすでに満席状態



湖面を彩る特大水中スターメイン



大観衆は「音と光の祭典」にうっとり



故郷の夜空を焦がす光の芸術



横芝町花火大会の名物スターメインの共演